

# おおま

No. 77  
岬の光

平成25年5月1日発行

議会だより



## 3月定例議会 主な内容

○町長所信表明 P 2～3

○平成25年 第1回定例会 P 4～6

○一般質問 P 7～8

○要望活動 P 9

○報告・編集後記 P 10



# 平成25年度

## 所信表明

大間町長 金澤満春

本日ここに、平成25年第1回大間町議会定例会が開催されるにあたり、町長としての所信を述べ、議会並びに町民皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

私は去る12月23日執行の大間町長選挙において、町民皆様の御支持を賜り、再度町長の重責を担うこととなり、1月19日三期目のスタートをいたしました。ここに、町民皆様の御支援に心から感謝申し上げます。

東日本大震災から2年の歳月が経過しようとしている今日、被災地においては、いまだに大きな爪痕が残されており、一日も早い復興を願うものがあります。

また、全国の町村は、過疎化、少子高齢化の進行、経済不況が続く中で地域経済の低下、雇用情勢の急速な悪化など、極めて厳しい環境下にあります。

しかしながら、住民にとって最も身近な町村が、どのような時代にあっても、それぞれの特性を活かした自立性の高い行政主体として、新たな時代を切り拓いていかなければなりません。大間町においても、地域住民の福祉の向上と町勢の発展につながる明るい未来を切り拓き、次世代を担う子供たちへ我がふるさと大間を引き継ぐため、今を生きる私たちが知恵を結集し、自主自立できる町づくりを着実に進めなければなりません。

我が町の先人は、豊かな町の建設を目指し原子力発電所の誘致を決断いたしました。活動を開始してから30有余年の長い年月を経過し平成20年本格工事がスタートし、平成26年11月の運転開始を目指してまいりましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により工事が中断し、昨年10月に工事を再開したものの国の方針が定まらず、いまだに運転開始時期については未

定であります。新政権では前政権が二〇三〇年代で原子力発電所を、0とする方針を0ベースで見直すとしており、明るい兆しが見えてきました。

資源の乏しい我が国のエネルギー政策の良き理解者として大きな決断をし、原子力発電所誘致を契機とした、自主自立できる豊かな町づくりを目指した先人の想いを受け継ぎ、今後においても核燃料サイクル事業の堅持と必要規模の原子力発電所の建設推進を訴えると共に、地域住民の安全・安心を確保するための複合災害に強い防災道路の整備促進を強く求めてまいります。

我が町にとって重要な課題であった大間函館航路については、平成20年9月、運航事業者である東日本フェリー株式会社が発表して以降、航路存続のため多くの方々の御支援と御理解を頂き昨年12月13日大函丸と命名されて進水式を終え、現在、今年4月18日の営業運行を目指し艀装作業が進められております。大函丸が、医療・教育・文化交流など福祉の向上と、新幹線函館乗り入れに伴う津軽海峡圏観光の一役を担い、地域経済の活性化に貢献できるものと確信しています。運航事業者である津軽海峡フェリー株式会社と下北・道南の連携を図り利用率の向上に努めてまいります。

私は「のびのび・生き生き・悠悠」を町づくりの基本に据え取り組んでまいりましたし、今後もこのことを基本として進めてまいります。

将来の大間町を担う子供たちが、のびのびと学び成長の過程で自分の事は自分でできるよう、家庭や学校・地域社会が育み見守っていくことが大事であります。そのために小中学校における基礎学力の向上を図るため、町単独で臨時講師を採用し、きめ細かな指導ができるよう配慮してまいります。また、少子化が進行している中で子供たちにとって、より良い教育環境を見出すための検討を進めてまいります。さらに、地域全体で子供を育む施策を、町内会や各種団体と検討を進めてまい



りたいと考えています。次世代を担う子供たちが心身ともに健全に育ち、町が進めてきた原子力発電所や関連企業等、社会に求められる人材を一人でも多く輩出できるよう努めてまいります。

次に、生産年齢に達した人達が自分の仕事に誇りを持ち生き生き暮らすために、基幹産業である漁業振興に努めてまいります。海水温の上昇の影響とされる、不漁対策や現在行っているナマコの種苗採取の継続等、アワビ種苗センターを活用した作り育てる漁業の推進や後継者育成について、漁協と協議しながら進めてまいりたいと考えています。

農業については、現在進められている農道整備事業や25年度からスタートする中山間事業により、農道が整備されることとなります。このことを踏まえ耕作放棄地の活用を図りながら、農作物の増産や品質の向上につなげるための検討を、農業委員会や農家など関係機関と進めてまいりたいと考えています。

畜産業については、肉用牛の生産が、漁業や農業等との兼業の可能性が高いことから、有望な産業と考えています。後継者の育成を図りながら、引き続き普及に努めてまいりたいと考えています。

商工観光では、原子力発電所の工事を本格化させることと、今年4月18日に就航する大函丸を、いかに活用するかが鍵を握るものと考えています。原子力発電所については、今まで、国・事業者に対し積極的に推進するよう要望をしてまいりましたし、今後波状的に要望活動を展開してまいります。観光は地域のすべての産業に係るすそ野の広い産業であります。漁協や農業団体などの連携を図り、町全体で情報を共有し観光客をもてなすことが大事であります。そのことから、やってまれ大間人間会議を組織し活動を開始しています。ここで生まれたアイデアが更なる観光の発展につながるものと期待しています。そして、これらの情報を、よりタイムリーに発信するためシステムを構築するため、関係団体と協議してまいります。

次に、町では生涯現役で悠悠と過ごせるよう、定期健診等健康づくり事業を実施しているところでありますが、町民の健診受診率が非常に低いことが気になります。体調を崩し病院を受診したとき、すでに病気が進行し取り返しのつかない状況にあったという話を聞くたび、非常に残念な思いをしてい

ます。我が町では平均寿命も非常に低く、男性は特に低い状況にあります。このことは家族にとつては悲惨なことであり、町にとつても大きな損失であり、とても残念なことでもあります。活力と元気あふれる町づくりを推進するためには、町民が心身共に健康であることが大事なことだと考えます。町民一人ひとりの健康への意識の高揚のため、保健活動団体等との連携を強化し、年一回必ず健診を受けるよう啓蒙を進めると共に、健診を受けやすい体制づくりをしていきたいと考えています。

私たちの先人は、次のように大間町民憲章に謳っています。

わたしたちは、津軽海峡の青い海と、美しい緑の丘と、太陽に恵まれた本州の最北の地に住む大間町の町民です。

先人の力と汗の偉業をたたえ、自然をいっくしみ郷土を愛し、豊かで明るく、うるおいのある住みよい町にするためにここに憲章を定め実践します。

1. 健康でよく働く豊かな町をつくりましょう。
  1. きまわりを守り、明るく住みよい町にしましょう。
  1. 教養と文化の高い清らかな町をめざしましょう。
  1. 互いに話し合う平和でなごやかな町をきずきましょう
  1. 人を愛し、まことをつくす、しあわせな町に育てましょう。
- 私は、先人の思いを深く受け止め、このことを実践してまいりたいと考えています。

議員各位を始めとする町民皆様の知恵をお借りしながら、目的達成のため鋭意努力してまいりますので、より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

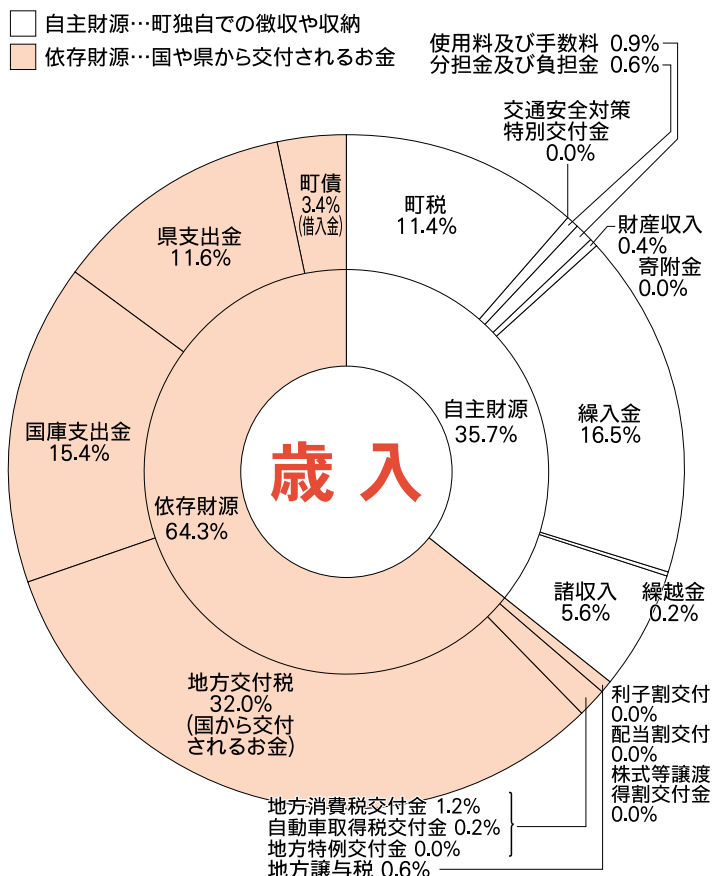


# 平成25年度 当初予算

# 一般会計予算 40億4,872万9千円の内訳

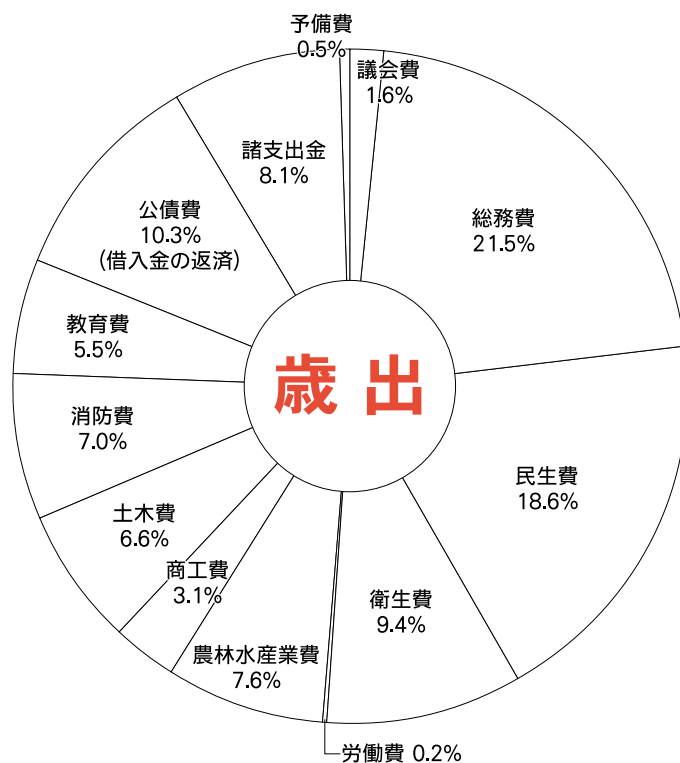
(単位：千円、%)

科 目	予算額	比率
1 町 税	461,565	11.4
2 地 方 譲 与 税	23,338	0.6
3 利 子 割 交 付 金	996	0.0
4 配 当 割 交 付 金	352	0.0
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	84	0.0
6 地 方 消 費 税 交 付 金	47,957	1.2
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	6,116	0.2
8 地 方 特 例 交 付 金	1,194	0.0
9 地 方 交 付 税	1,296,106	32.0
10 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	252	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	24,548	0.6
12 使 用 料 及 び 手 数 料	38,134	0.9
13 国 庫 支 出 金	622,162	15.4
14 県 支 出 金	469,784	11.6
15 財 産 収 入	17,624	0.4
16 寄 附 金	50	0.0
17 繰 入 金	668,299	16.5
18 繰 越 金	10,000	0.2
19 諸 収 入	225,150	5.6
20 町 債	135,018	3.4
歳 入 合 計	4,048,729	100.0



(単位：千円、%)

科 目	予算額	比率
1 議 会 費	64,107	1.6
2 総 務 費	871,086	21.5
3 民 生 費	754,694	18.6
4 衛 生 費	381,978	9.4
5 労 働 費	6,458	0.2
6 農 林 水 産 業 費	307,209	7.6
7 商 工 費	125,116	3.1
8 土 木 費	266,326	6.6
9 消 防 費	282,213	7.0
10 教 育 費	224,202	5.5
11 公 債 費	416,314	10.3
12 諸 支 出 金	329,026	8.1
13 予 備 費	20,000	0.5
歳 出 合 計	4,048,729	100.0





# 平成25年 第1回定例会

会期 2月28日～3月8日

## 平成25年度 当初予算

### 一般会計

歳入歳出とも40億4872万9千円となり、前年度比22億5717万9千円、35・8%の減となる。

### 歳出の主なるもの

#### 総務費

- 中型バス購入費1820万3千円。
- 公共用施設維持運営基金積立金2億1105万2千円。
- 水産振興基金積立金4375万円。
- 大函丸購入費4881万8千円。
- 下北広域負担金4260万8千円。

#### 民生費

- 国保繰出金・介護繰出金・後期高齢者医療繰出金合わせて2

億3165万3千円。

- 大間保育園運営費及び児童手当合わせて1億7060万3千円。

#### 衛生費

- こども医療費取扱委託料1680万円。
- 下北医療センター負担金1563万9千円。
- 清掃総務費で下北広域負担金1億3049万9千円。

#### 農林水産業費

- 水産振興事業補助金6422万5千円。
- 材木漁港施設機能強化事業委託料2千万円。

#### 商工費

- ブルーマリンフェスティバル企画運営委託料1239万円。
- 海峡保養センター宿泊棟屋根・外壁改修

工事1028万円。

- 温泉送迎中型バス2022万4千円。

- 観光協会補助金957万円。

#### 土木費

- 大間平2号線道路改良工事7232万4千円。
- 下水道事業特別会計繰出金1億372万3千円。

#### 消防費

- 下北広域負担金2億2940万8千円。
- 消防団事務委託料1845万8千円。
- 防火水槽新設862万6千円。

- 第4分団(奥戸)に小型動力ポンプ付積載車及び資機材運送車合わせて1876万8千円。

#### 教育費

- 公民館トイレ改修工事946万1千円。

#### 労働費

- 勤労青少年ホーム、キャンピー改修工事302万4千円。

#### 公債費

- 元金3億3503万3千円、利子8128万1千円の当該年度支払見込額を計上。

#### 諸支出金

- 大間病院会計負担金2億2602万6千円、同会計貸付金1億円。
- 予備費2千万円。

#### 国民健康保険特別会計

- 歳入歳出それぞれ10億1870万9千円、前年度比0.9%の増となる。

#### 介護保険特別会計

- 歳入歳出それぞれ5億3561万9千円、前年度比8710万円、19・4%の増となる。

#### 下水道事業特別会計

- 歳入歳出それぞれ2億2393万8千円、前年度比3601万円、13・9%の減となる。

#### 後期高齢者医療特別会計

- 歳入歳出それぞれ4515万5千円、前年度比113万9千円、2.6%の増となる。

#### 水道事業会計

- 収益的収入及び支出の収入1億3878万2千円、支出1億3715万円。

- 資本的収入及び支出の収入289万4千円、支出7143万3千円。資本的収入が資本的支出に対して不足する額6853万9千円は内部留保資金で補填する。

# 平成24年度補正予算

## 一般会計

歳入歳出それぞれ248万3千円を減額し、予算総額65億1825万7千円とした。

○大函丸建造工事費2400万円を追加。

○大間・函館航路維持事業補助金1千万円を追加。

○町長選挙の確定に伴い520万円を減額。

○水産振興事業費の確定に伴い補助金602万5千円を減額。

○地域水産物供給基盤整備事業負担金677万円を減額。

○奥戸公民館解体・農研センター解体・駐車場整備合わせて477万円の減額。

## 国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれ4

39万2千円を減額し、予算総額10億3034万円とした。

○財政基金繰入金642万4千円を減額。

○国保システム改修委託料105万円、特定保健指導に係る委託料122万3千円をそれぞれ減額。

○国保システム改修委託料105万円、特定保健指導に係る委託料122万3千円をそれぞれ減額。

## 海峽保養センター事業等特別会計

歳入歳出それぞれ397万4千円を追加し、予算総額1億6467万9千円とした。

○一般会計繰入金283万5千円を追加。

○管理組合業務委託料・同組合解散清算に伴う額407万5千円を追加。

## 介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ1

80万円を減額し、予算総額5億704万3千円とした。

○一般会計繰入金180万円を減額。

○総務管理費137万9千円を減額。

## 下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれ17万6千円を減額し、予算総額2億3294万4千円とした。

○一般会計繰入金17万6千円を減額。

○公債費の利子19万9千円を減額。

## 後期高齢者医療特別会計

歳入歳出それぞれ22万3千円を減額し、予算総額4379万3千円とした。

## 水道事業会計

収益的収入及び支出の補正であり、支出の

営業費用で8万2千円を減額し、収益的支出の総額を1億3845万円とした。

## 新しい条例 主なるもの

### 空き家の適正管理に関する条例

空き家等の管理を適正化することにより、倒壊等の事故を未然に防止し、生活環境の保全を図るための条例

### 町営住宅等整備基準条例

地域主催一括法の施行による公営住宅法等の改正に伴い、公営住宅及び共同施設の整備基準について、国土交通省令のもとに条例で定める事となったための条例

## 同意

一、固定資産評価審査委員会委員の選任

○大間字下手法36番地2  
昭和25年2月13日生



松原 壽廣 氏

二、副町長の選任

○奥戸字向町81番地1  
昭和26年12月15日生



菊池 武利 氏

※両氏とも、全議員の賛成をもって再任

○大間字狼丁21番地

竹内 力氏

○奥戸字二ツ石102番地2

中嶋正学氏

## 常任委員会報告

### 審議中の陳情

△産業民生常任委員会△

陳情第6号

○生活保護基準の引き下げはしないことなどの意見書の提出を求める陳情書  
不採択

△総務教育常任委員会△

陳情第7号

○消費税増税の中止を求める意見書の提出を求める陳情書  
採択

陳情第8号

○「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書の提出を求める陳情書  
採択

### 陳情

陳情第1号

○TTPへの参加反対の意見書の提出を求める陳情書  
採択

# 一般質問



野 崎 信 行 議員

1 町内2000円バスの運行について

答弁

町が有償で運送を行うためには、道路運送法をクリアしなければなりません。それらのことを考えると、町独自の運行は困難と考えます。公共交通確保のため、下北交通に補助金を交付しており、その利用促進につとめる。

2 シイライン割引について

答弁

現時点で大間町が割引券を配布する考えはない。

3 光ファイバーの活用について

答弁

有効活用について、今後、検討を進めていく。

4 空き家活用について

答弁

空き家を町が引き受けてアパートの活用することは、現時点で考えていない。補助金制度も現時点では考えていない。空き家問題については、今定例会において、空き家等の適正管理に関する条例の提案をしない。

5 空き家取り壊し補助金制度設置について

答弁

町主催での考えはない。関係機関・商工会・観光協会等との協議をしたい。

ており、条例に基づいた形で進めたい。

6 茨城県大洗町と大間町の姉妹町締結について

答弁

交流については今後検討する。

7 大間町ロゴマークについて

答弁

今後検討させていた

8 ミス大間まぐる、ミス大間コンテスト開催について

答弁

町主催での考えはない。関係機関・商工会・観光協会等との協議をしたい。

9 電動表示板の設置について

答弁

設置について考えていない。財政状況等は

自治法により、広報やホームページで公表している。

10 融雪剤散布車の購入について

答弁

軽トラック搭載型の散布機を購入し、3月5日納入されました。有効に活用したい。

11 温排水の有効活用について

答弁

今後、魚種の選定及び採算性等について、漁協・県・町で組織する漁業振興協議会で検討していく。

12 放射能被ばく・検査など、被ばく医療体制構築について

答弁

むつ総合病院が初期被ばく医療機関に、大間病院が初期被ばく医療協力支援機関に指定され、汚染調査や健康

相談等を行い、必要に応じて救急医療や簡易な除染等の初期医療を行うこととなつています。事業者と連携し研修を行っています。今後、燃料装荷までに、資機材の整備をはかってまいります。

13 放射能研究所建設について

答弁

放射能研究所については、全国的に設置している自治体はないと認識している。今後の調査を行っていく。

14 豪華客船を大間原発港入港について

答弁

入港は不可能と認識している。大間港も不可能です。函館に入港したお客さんをオープンで大間に案内するなど考えていきたい。

15 大間町に二つ目の老人ホーム建設について

答弁

特別養護老人ホーム建設について、現在、入所希望者が65人と伺っています。介護保険法では、入居者は介護認定を受けることが条件となつております。建設については、県の認可が必要となり、介護保険料の高騰等も運動します。増床も含め、慎重に検討してまいります。



# 一般質問



正根 秋雄 議員

二期目の町づくりについて、具体的な施策を町民に示せ

## 答弁

### 一、原子力発電所の建設推進

議会とともに安全を第一義として、国・事業者に対して積極的な要望活動を展開していく。災害に強い防災道路の整備促進についても要望活動を展開していく。

### 一、大函丸について

専門医療を受けるために非常に重要な役割を担う航路であり、新しい船でさらに利便性が向上すると考えている。教育、文化交流等も継続しながら船の活用、

利用率の向上に繋がると考えている。

### 一、教育について

町長就任以来、町単独で臨時講師を採用し、基礎学力の向上と部活等々のきめ細やかな教育ができるようつとめてきた。今後においても事業を検証し、さらにより効果が得られるように協議を行う。

### 一、産業の振興について

漁業について、町・県・大間漁協・奥戸漁協で構成する大間町漁業振興協議会を立ち上

げ、協議を重ねております。あわびの放流サイズの大型化、放流後の追跡調査等の実施、なまこの種苗、放流の増量等、雑草駆除、種糸の投入によるコンブの増殖事業等を継続しながら、漁獲に直結させるための事業の実施。

農業については、今年度、三円いもの原種穂の防疫検査に合格いたしました。今後、関係機関が役割分担しながら生産支援をする体制をつくり、生産者が協力した計画的な出荷体制が望まれていることから、イオンリテール等の協力を得ながら、おこっぺいものブランド化にむけた協議会を設立し協議を進めていく。

### 一、健康づくりの推進

現在、乳幼児等の各種ワクチンと子宮頸がんワクチンの無料投与等、中学生までの医療費の無料化、特定健診及びがん検診の無料化

を実施し、さらに各団体への啓蒙を実施し、受診率向上につとめてまいりましたが、まだ低い状況です。40代50代の健診率が低いことから、30代からの健診を受ける習慣づけをしてまいりたい。

## 再質問

### 一、防災対策

・東日本3.11を考えれば、立地町として防災の強化対策は非常に大事と思うが、防災対策が見えない。

## 答弁

防災道路の早期の整備ということ是非常に

大事と考えている。津波等については海抜表示板等々を含めた表示をしながら、すぐ避難できる体制がとれるようにしたい。

・組合は津波がくれば海抜が低いので3.11から2年になるのに、なにか話し合ったか。

## 答弁

無線等の利用ができなくなる可能性が大であることから、無線利用ができる体制をつくっていただきたいという話もあり、今後について考えていきたい。

### 一、オフサイトセンターについて

・他の二村が何年も前から騒いでいる。町長はどう考えているのか。

## 答弁

オフサイトセンターはあくまでも立地町にあるべきと主張してきております。

・両村から比べれば、大間は動きが遅い。他

に獲られれば町民の理解が得られない。立地町としての意気込みは。

## 答弁

立地町にあるべきということを今後も強く主張していく。

### 一、新卒者の働く場が大間にな

データをとるべきだ。フェリーに雇用をお願いはしたのか。

## 答弁

データは学校ですぐとれる範囲です。お願いをしてまいりたい。

### 一、フェリー割引について

患者ばかりでなく、大間の住民にも運賃の割引ができるよう努力してほしい。

## 答弁

法的な制約が大きな課題ですが、利潤が生まれる状況を確認した中で、大間町に還元できるように訴えていきたい。





大間原発三ヶ町村協議会 国に要望活動

記 副議長 岩泉盛利

大間原発建設推進と避難道路の整備要望



○平成25年2月21日

○参加者

三ヶ町村長・正副議長・正副原発特別委員長

○要望先

1. 経済産業省  
菅原副大臣

○要望内容

大間原発の建設中断により、地域経済が大

打撃を受け活力を失った。その上で安全確保を第一に、大間原発の計画を確実に推進することを求める要望書を菅原副大臣に提出。

(コメント)菅原副大臣

「エネルギー問題と国民の安全・安心ということについては、経済産業省と国土交通省がしっかりと進めていきたい」と話した。

2. 国土交通省  
赤澤政務官

○要望内容

東日本大震災の際、3町村を結ぶ唯一の道路である国道279号が、津波警報の発令で2日間にわたり完全通行止めとなり、陸の孤島と化



(コメント)赤澤政務官

「想像以上に整備が遅れており、きちんと対応しなければならぬ」と答え、「地域住民の思いを踏まえてきちんとした形で進めていくべきだ」と力強い言葉をいただいた。

(コメント)金澤町長

「道路については経済産業省側からも国土交通省に働きかけます」という強い言葉をもらった。国土交通省の陳情でも整備が急がれる地域との認識をしていただいた。

風間浦村長・佐井村長「避難道については、地元への思いは伝わった」と話している。

した。とした上で、地震と原子力災害の複合災害時の避難確保のため、279号とは別の大間町から延びる新たな国道を、下北半島縦貫道路の整備促進を国の直轄で進めるよう求め要望書を提出。

原発推進の  
要望活動

平成25年1月14日から16日までの3日間、大間原子力発電所推進の要望書を携え、金澤町長・石戸議長・岩泉副議長・正根原特委員長・傳法副委員長の5名が、経済産業省(資源エネルギー庁)・環境省(原子力規制庁・規制委員会)・青森県選出国会議員・電源開発(株)を訪問、要望書の提出と、要望をお願いしてきた。



# 報告

平成25年4月18日、  
今日は新造船「大函丸」の就航日。

どんよりとした曇り空。大間にしては珍しいぐらい風のない朝の6時45分、ターミナルに到着した。

玄関を入ってすぐ左側にエレベーターが設置されているし、何より嬉しいのは、乗船時、今までは車両の間をぬうように歩き、狭い階段を登らなければならなかったが、今度からは、エレベーターで2階に上がりターミナルからボーディング・ブリッジ（乗降用通路）を利用し、直接、客室がある2階に入れることである。

体の不自由な方や、



お子さん連れ、お年寄りには嬉しいサービスだ。

客室もドッグルーム・ファミリールームと、動物連れのお客様や、小さいお子様をお連れのご家族が、他のお客様に気を使わず、くつろげる場所も用意されていた。

この日は、6日からフェリーが運休していたためか通院者や、この日のために旅行会社が企画した団体ツアー客など、一般客を合わせると、利用者は250名

と大入り満員。

「うれしい」

外に出てみると早朝にもかかわらず、「イットテラッシュヤイ」「マタキセノ」と、大勢の方々が大漁旗を振り見送ってくれている。

乗客が七色の紙テープを握り、手を振る光景は旅情を掻き立て、昔の船旅を思い出し胸が熱くなった。

「町民の船、英断が成功する事を願わずにはいられない」

(記) 加藤



## 編集後記

今日から5月、本州最北端の地方にも、ようやく春がやって参りました。約半年間、厳しい風雪の多いところではありますが、私は、この大間が大好きです。

5月はゴールデンウィーク、皆さんどこかへ小旅行の計画あります。新造船「大函丸」も4月18日から運行し、ご家族、お子様連れで函館に行つてくるのも思い出になるかと思えます。一歩外へ出て春を楽しんで、今年も頑張りましょう。

(記) 竹内

### 議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

野崎 信行

小野 和美

宮野 昭一